

特集2 日英の女性医療専門職に関する比較研究の課題と可能性

On the Papers of the Comparative Study of Female Clinical Professionals in UK and Japan

本特集は、日本学術振興会科学研究費助成による共同研究（「日英の女性医療専門職の生涯キャリアと養成・支援に関する総合的研究」、平成25～27年度・基盤B・研究代表者渡邊洋子）の成果の一部（渡邊・佐伯・柴原・池田）、および同研究と連動する形で刊行された著書の書評で構成されるものである。

現在、医療専門職として挙げられる職種には主に、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、理学療法士などがある。これらの多岐にわたる専門職領域は、多様な専門職性をもつのみならず、独自の発達経緯と背景を有し、ジェンダー比や女性の位置づけ、および、それらを反映したキャリアの形成・継続・構築プロセスも異なる。本共同研究では各領域の女性医療専門職のうち、女性医師と女性看護師を主な対象として設定した。両職種が、異なる発達経緯や背景に加え、ある意味で対照的な諸要素・諸側面を有するがゆえに、両者の比較検討が、女性の職業、さらに女性の医療専門職の包括的な考察・検討に多大な示唆をもたらすと思われた。また日本の状況を相対的に捉える上で、イギリスに注目した。世界初の女性医師E.Blackwell、および看護師の専門職化の主導者F.Nightingaleを輩出したイギリス社会における医師・看護師の職業的発達、キャリアの現状と実践的課題などの多面的な比較検討が研究上、有効と考えられるためである。

同研究では、平成25年度にイギリスの医師・看護師の両者を対象とする訪問・聴き取り調査を行ったが、日英の医療に関わる現場状況や背景に関わって、ある程度の事前準備は行ったとはいえ、当初の予測をはるかに上まわる認識と実態の乖離に直面し、女性医師と女性看護師、各々のより掘り下げた理解と認識がない段階で国際的な職業比較を行う困難さを実感するに至った。両者は医療専門職として日英で全く異なる発達経緯と職業上の特徴を有するが、さらにその職業観や職業倫理などもより周到に考察すべきとの結論に至った。そこで当面は研究計画を修正し、まずは両者を独立した形で丁寧に考察した上で職業比較に進むこととした。本稿はゆえに第一段階の女性医師に関わる研究部分に相当する。

以下、冒頭の日英における女性医療専門職の比較研究の視点について検討（渡邊）を受け、女性医師をめぐるキャリア研究の国内動向を概観し（佐伯）、イギリス調査をも踏まえ、イギリスにおける女性医師のキャリア形成の現段階を考察する（柴原）。次に、社会教育学研究者矢口悦子氏（東洋大学教授）による、渡邊洋子『近代日本の女性専門職教育—生涯教育学から見た東京女子医科大学創立者・吉岡彌生』（明石書店、2014）への書評を掲載させていただく。さらに、今後の女性看護師研究に架橋するものとして、Nightingaleの陰で知られていないが、イギリスの女性看護師研究に重要な示唆を与えるM.Seacoleについての研究資料を紹介する（池田）。

*矢口悦子氏には、ご多忙の中でのご快諾とお時間を割いてくださったご厚意に心より感謝したい。